

[野菜部門 令和7年度 参考となる研究成果]

事項名	いちご「夏のしずく」の夏秋どり高設栽培の栽培管理方法と収量性		
ねらい	いちご「夏のしずく」の夏秋どり作型で、かん水同時施肥する高設栽培について、栽培管理方法と収量性を明らかにしたので参考に供する。		
内容	<p>1 栽培管理方法（表1、表2、表3、図1）</p> <p>(1) かん水は、収穫開始花房出蕾期以降、毎日早朝から2hおきに日没2h前まで行う。</p> <p>(2) 1回当たりのかん水量は、プランター下部から排水がしたたる程度を目安とする。</p> <p>(3) 施肥は、収穫開始花房出蕾期～8月末まで給液 EC0.3dS/m、9月～収穫終了まで給液 EC0.6 dS/mで行う。</p> <p>(4) 高温が予想される場合は、遮光率50%程度の白色資材で6月～9月に常時展張する。</p> <p>(5) 芽数は制限せず放任し、古葉の変色した葉のみ摘除する。強い摘葉（1芽3枚程度）は減収要因になるので行わない。</p> <p>(6) 上記(1)～(5)までの管理により、草高28cm～30cm、葉柄長20cm程度、葉身長8cm～9cm、小葉幅6cm～7cmを確保する。</p> <p>2 その他栽培上の留意事項</p> <p>(1) 栽植密度は株間を実質25cm程度の疎植とし、芽が多く大株になるためマルチ被覆は行わない。</p> <p>(2) 据え置き2年目の株を用いても収量が確保できる。</p> <p>3 収量性（表2）</p> <p>(1) 全果収量は、1,300g/株を超え、商品果収量は985g/株で反収は3.2t/10aになる。</p> <p>(2) 落等要因となる規格外品のほとんどが6g以下の過小果である。</p> <p>(3) 上記1の終日かん水と施肥濃度を組み合わせることで商品果率が高くなる。</p>		
期待される効果	夏秋いちごの安定生産に寄与する。		
利用上の注意事項	<p>1 青森農総研型いちご高設栽培で行った結果である。</p> <p>2 定植～収穫開始花房出蕾期及び栽培管理の共通事項は、令和7年度参考となる研究成果「自作できる青森農総研型いちご高設栽培ベンチの構成とかん水・施肥方法」を参考にする。</p> <p>3 令和5年のような高温年でも全果収量が低下することはないが、高温期の8～9月は過小果の割合が高くなり平均一果重が軽くなるため、小果の販路確保が必要になる。</p>		
問合せ先（電話番号）	農林総合研究所 花き・園芸部 (0172-52-4341)	対象地域 及び経営体	県内全域の夏秋いちご作付経営体
発表文献等	令和4～6年度 農林総合研究所試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 かん水及び施肥方法が収量に及ぼす影響

(令和5年 青森農総研)

かん水方法	給液方法 前半-後半 (dS/m)		収量 (g/株)			10a換算 (t/10a)	商品果 率(%)
			6-8 月	9-12 月	合計		
朝方	0.3-0.6	全果	604	529	1132	4.72	55
		商品果	405	219	623	2.60	
	0.6-0.3	全果	618	714	1332	5.55	52
		商品果	388	309	697	2.90	
終日	0.3-0.6	全果	608	529	1137	4.74	57
		商品果	433	212	645	2.69	
	0.6-0.3	全果	614	580	1195	4.98	52
		商品果	387	230	617	2.57	

(注) 1 かん水方法及び商品果収量は表1と同様。

2 給液方法の前半は収穫開始花房出蕾期～8月末まで、後半は9月以降。

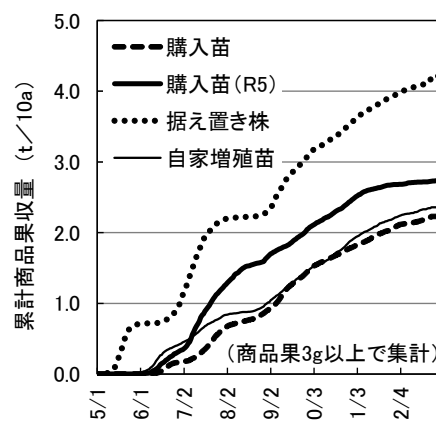


図1 実証における商品果収量

(令和6年 青森農総研)

表2 かん水及び遮光方法が収量に及ぼす影響

(令和6年青森農総研)

かん水方法	遮光	摘葉	収量 (g/株)			10a換算 (t/10a)	商品果 率(%)	規格外品 (%)		全果平均 一果重 (g)	
			5-8月	9-11月	合計			過小果	その他		
終日	高温時 遮光	古葉 のみ	全果	583	674	1258	4.19	73	97	3	7.1
			商品果	500	420	921	3.07				
朝方			全果	629	734	1363	4.54	66	99	1	6.5
			商品果	551	347	898	2.99				
終日	長期 遮光		全果	636	685	1321	4.40	75	93	7	7.3
			商品果	541	444	985	3.28				
朝方			全果	538	879	1417	4.72	68	96	4	6.7
			商品果	454	511	965	3.22				
終日	強 摘葉	全果	535	681	1216	4.05	70	96	4	6.9	
		商品果	437	409	846	2.82					

(注) 1 朝方かん水は5:00と11:00の2回、終日かん水は5:00から2hおきに17:00まで7回。

2 遮光資材はイノベックス社ダイオキールホワイト 1020SWを使用した。実測による遮光率は屋外日射量に対して約50%であった。

3 高温時遮光は7～8月の高温時に展張、長期遮光は6月7日～9月16日に常時展張した。

4 強摘葉は1芽3葉に調整した。

5 商品果収量は6g以上の市場出荷規格に準じて集計した。

耕種概要 (表1、表2、表3、図1)

1 (1) 所内試験：農総研 C1ハウス

(2) 育苗方法及び定植日：前年採苗(R5年4月5日)、冷蔵ランナー挿し苗(R6年4月18日)

(3) 栽植様式、株数区制：青森農総研型いちご高設栽培、株間25cm、1条植え(1mプランター当たり4株)、3,333株/10a、マルチ被覆無

2 (1) 実証試験：株式会社ジョイ・ワールド・パンフィック圃場(平川市)

(2) 育苗方法及び定植日：前年採苗ポット購入苗(R5年3月29日)、前年採苗ポット購入苗(R6年3月20日)、前年採苗冷蔵ランナー挿し苗及び前年鉢上げ培養苗(R6年4月18日)、据え置き株(R5年7月27日)

(3) 栽植様式：青森農総研型いちご高設栽培、マルチ被覆無、かん水点滴チューブ1列2本(20cmピッチ)、定植～5月末までは適宜かん水(7:00に1回)、6月以降は終日かん水5:00から2hおきに17:00まで7回、かん水量は各回排水が出るまで、施肥はOATアグリオ社製タンクミックスF&B、収穫開始花房出蕾期までは給液ECO.6mS/cm

(4) 培地：テンダー社いちご専用培土青森型、培地量は30L/1プランター

表3 かん水及び遮光方法が生育に及ぼす影響

(令和6年青森農総研)

調査項目	調査月日	かん水方法				
		終日	朝方	終日	朝方	終日
		高温時遮光		長期遮光		
		古葉のみ				強摘葉
芽数 (個)	5/30	3.3	2.8	2.6	2.8	2.8
	7/3	3.5	4.3	3.6	4.5	4.3
	8/11	4.2	5.3	3.9	4.9	4.7
	9/15	5.2	5.8	5.7	7.3	6.4
	10/5	6.3	7.1	6.4	8.1	6.4
	11/10	5.5	5.6	6.0	6.3	5.6
	12/3	6.1	5.3	4.9	5.9	4.8
草高 (cm)	5/30	20.4	21.9	21.5	21.8	21.1
	7/3	25.3	26.8	28.0	28.9	27.3
	8/11	26.3	29.1	30.5	32.3	27.8
	9/15	25.1	28.9	28.8	32.3	26.3
	10/5	25.8	27.9	28.3	32.6	27.5
	11/10	27.5	28.4	28.8	31.3	26.5
	12/3	22.8	25.1	24.6	28.4	23.4
葉柄長 (cm)	5/30	11.3	10.8	10.5	12.2	10.0
	7/3	17.0	16.4	19.3	20.7	19.1
	8/11	19.8	19.9	21.2	22.4	20.4
	9/15	15.4	19.4	18.7	23.8	18.7
	10/5	17.5	20.1	20.3	24.3	20.2
	11/10	17.9	19.2	18.4	20.8	19.3
	12/3	17.1	14.9	16.2	20.0	14.2
葉身長 (cm)	5/30	10.1	9.5	9.3	9.8	9.2
	7/3	8.9	9.6	9.4	9.8	10.2
	8/11	8.2	8.1	8.8	9.0	8.6
	9/15	7.6	7.5	7.5	8.7	7.6
	10/5	8.1	7.7	8.4	8.2	8.3
	11/10	7.5	7.5	8.0	8.2	7.6
	12/3	7.8	6.9	7.2	7.5	6.9
小葉幅 (cm)	5/30	7.5	6.8	6.8	7.6	6.5
	7/3	6.6	6.8	6.9	7.1	7.2
	8/11	5.9	5.8	6.2	6.2	5.8
	9/15	5.2	4.9	4.9	5.9	5.3
	10/5	5.8	5.6	6.0	6.0	6.0
	11/10	5.6	5.5	5.9	5.6	5.7
	12/3	5.6	5.0	5.5	5.3	4.9

(注) 1 かん水方法、遮光及び摘葉は表2と同様。